

## 編集後記・Editorials

魚類学雑誌  
41(1): 358, 1994

もう今年もあと1カ月余りです。早いもので、魚雑の1994年の論文は今号が最後です。皆さんのご協力もあって、今回は計17篇の論文を掲載することができました。投稿論文の回転もきわめて順調で、現状では受理された論文は数ヵ月後に出版されています。今回も1番早いものでは8月に受け付けた論文が2篇あります。ということは、今やっている研究でも、ひょっとしたら来年度の業績になるかもしれません。待ち時間が1年から2年はざらの業界ですから、これは特筆すべきことだと思います。皆さんより一層のご投稿をお待ちしております。

ところで、ついこのあいだファックスの便利さに感動していたと思ったら、もう電子メールの時代になってしましました。今回同封されている会員名簿には、末尾にそのアドレスリストが掲載されています。インターネットを介した電子メールの便利さについては、いまさら言うまでもありません。電話のように相手の仕事を中断させてしまうこともありますし、ファックスのように一度プリントアウトする面倒もありません（ファックスモ뎀なら話は別です）。海外へのメールの便利さは、さらに特筆すべきものでしょう。手紙を書いて、早い場合は当日に、遅くても数日中には返事が届きます。私事になりますが、先日あるニュースレター誌の原稿をカリフオ

ルニアに電子メールで送ったところ、すぐさまこちらの原稿の不備な点を指摘してくれ、同日に問題はすべて解決しました。もちろん、電子メールの御利益はこれだけではありません。各種のサーバーにアクセスすることにより鮮度満点の情報を得ることができますし、メーリングリスト（ML）を構築することにより、全国の研究者がある特定の問題に関して議論を闘わせることができます。また、海外のジャーナルの中には電子メールによる入稿や、極端なところでは投稿さえも認めているところもあります。ここ数年、国内の大学や国の研究機関では、猛烈なスピードでネットワーク化が進んでいますが、そういうネットワークからもれても、文部省の学術情報センターや民間のパソコン通信網を経由して、個人ベースでインターネットにアクセスすることができるようになりました。

魚雑ではフロッピーによる入稿を皆さんにお願いしており、最近では9割以上の方からのご協力がいただけるようになりましたが、ときには印刷所のハードとの相性が悪くて読み込めないバイナリーファイルができるます。電子メールでの入稿が実現すれば、ハードの違いによるこのような問題もなくなり、編集者や印刷所の労力が大幅に軽減されることになります。いつになるかはわかりませんが、早くそういう日が来ることを願っています。  
(MM)